

● 三重県関係で国の登録有形文化財（建造物）の新登録の答申が行われるものの概要

【名称・年代】

田中家住宅主屋（たなかけじゅうたくしゅおく）	明治29年／大正期・昭和前期増築・昭和30年頃改修
田中家住宅東蔵（たなかけじゅうたくひがしぐら）	明治38年
田中家住宅新蔵（たなかけじゅうたくしんぐら）	大正元年／昭和30年頃増築
田中家住宅前座敷（洗耳亭）（たなかけじゅうたくまえざしき・せんじてい）	明治16年／明治40年頃増築
田中家住宅表納屋（たなかけじゅうたくおもてなや）	明治33年
田中家住宅西納屋（たなかけじゅうたくにしなや）	大正期／平成2年改修
田中家住宅表土塀（たなかけじゅうたくおもてどべい）	明治35年
田中家住宅東土塀（たなかけじゅうたくひがしどべい）	明治38年
田中家住宅西土塀（たなかけじゅうたくにしどべい）	明治44年
田中家住宅南土塀（たなかけじゅうたくみなみどべい）	明治後期
田中家住宅石垣（たなかけじゅうたくいしがき）	明治後期

【所在地】松阪市飯高町波瀬212

田中家は、江戸時代には和歌山街道波瀬宿（はぜじゅく）の脇本陣を勤めた旧家です。農業および材木、酒造を家業としていましたが、明治18年に酒造業を廃業し、現在は林業を家業としています。現在の田中家住宅は、14代田中彦左衛門が明治29年から30年頃までに整備した建物が主体となっています。敷地は和歌山街道を挟んで南北にあり、表土塀のほか東土塀・西土塀・南土塀で区切ることで広大な屋敷構えを重厚にまとめています。

主屋は街道に南面して建つ間口の広い切妻造り二階建てで、庇下に霧除けを設け、二階の両端に木瓜形（もっこうがた）の虫籠窓（むしこまど）、開口部に格子や出格子を配した堂々たる外観となっています。主屋の東には道具蔵の東蔵、北西には家財蔵の新蔵が建っています。また、街道沿いには表納屋と西納屋が建ち並び、上層商家の伝統的な屋敷構えを伝えています。敷地のなかほどにある前座敷（洗耳亭・せんじてい）は、切妻造りの西棟と入母屋造りの東棟からなる上質な数寄屋（すきや）意匠の客座敷で、櫛田川に面する南側を開放的につくすることで、溪流の眺望を借景に取り込んでいます。敷地東南部の石垣は城郭を思わせる壮大なもので、高さ8.1メートルの規模で河原石が積まれています。

これらの建物は、当宿場最大規模を誇る大型の町屋建築として、街道沿いの歴史的景観をかたちづくっています。



田中家住宅主屋 外観（南東から）



前座敷（洗耳亭）・石垣（南から）



前座敷（洗耳亭）の和室と眺望（南西から）



石積と漆喰塗で築かれた表土塀と東蔵（南から）



表納屋 外観（北西から）